

平成 31 年度自己評価

平成 31 年度は自粛要請のため、3 月初旬予定の評価委員会開催を見送りました。

以下園内自己評価とりまとめ

本年度重点的に取り組む目標と計画

- ・インクルーシブ教育～多様な子どもがいるからこそ思いやりが育つ。
- ・「非認知能力」を高められる教育・保育の実践～意欲を育てる保育
- ・めざまし教育（ピアジェ理論による活動教育）・教材教具の活用（絵本、モンテ）
- ・新教育要領に基づく保育と本園の教育理念に基づく教育方針の実践・研究
- ・カリキュラムマネジメント（PDCA サイクル）
- ・職場環境の改善～子どもや保育者の育ちは同僚性に支えられている。
- ・満 3 歳児・ことり教室保育の実践。

重点目標で改善と評価できること

- ・教師感で互いの働く環境、立場を理解しながら支えあって保育が出来た。
- ・いろいろな子と生活する中で、相手を思いやる気持ちや、互いを高めあう気持ちが育ちあえる場になっていると感じる。
- ・子どもの気持ちに寄り添い、主体的になるよう遊びや活動を考えた。
- ・個々の成長段階や課題を見極め、適切な援助を行うよう心掛けている。
- ・発達段階や集団の状況に合わせたカリキュラムを PDCA を意識した視点で取り組んでいる。
- ・新館に満 3 児クラスが移転し、これまでの実践に基づき環境を整えることが出来た。
- ・園内参観研修を重ね、お互いに保育を見ることで成長や課題に気づき、また、他クラスの子供理解を深めることが出来た。

重点項目で課題となる事項について

- ・生きる力と考える力の育成という部分ではもっと遊びの中で子ども達が自主的に何かを発見する活動を大切にしていきたい。継続性や遊び込むための環境に課題がある。
- ・めざましあそび教材をさらに活用する為の教材研究を行っていきたい。
- ・同僚性を高めるためにも、園内研修の在り方について考えていきたい。

総合評価について

B 評価…ほぼ目的が達成されている。（全教職員の自己評価平均値）

幼稚園型認定こども園として運営すべき今後の課題

長時間保育の 2 号認定児に対応する体制づくりを目指し教職員間の連携が課題となってきたが、お互いの仕事内容について理解を深めながら良い体制へ改善を重ねてきた。配置が変わっても維持していけるよう続けていきたい。

今年度評価をまとめる時期に新型コロナウイルスによる登園自粛となった。今後 H 3 0 のような震災などを含め、災害に強い体制や環境作り（特にデジタル化）を整備していきたい。